

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。春本番、すっかり暖かくなりました。さて、**最澄、空海後の仏教**がテーマの今年のかかわら版。今月は**一遍の時宗**についてです。

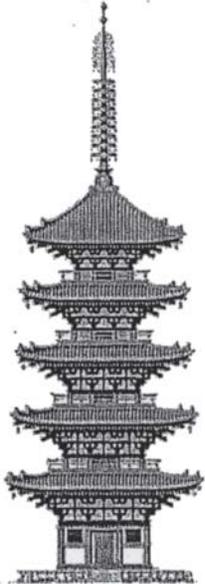
★松寿丸

平安時代末期から鎌倉時代にかけて、**源平合戦(保元の乱、平治の乱、壇ノ浦の戦い)**、**承久の乱(一二三二年)**、**元寇(一二七四年、八一年)**などの混乱と動乱が続き、**末法思想**が広がっていました。

そんな中で**法然**や**親鸞**が登場。**南無阿彌陀仏**を称える**浄土宗**や**浄土真宗**が誕生したことは前々号、前号でお伝えしました。

そして、法然の約百年後、親鸞の約六十年後に誕生したのが**一遍**です。

一二三九年、一遍は瀬戸内海を制圧していた**河野水軍**の豪族、**河野通広**の次男として、**伊予国**道後温泉近くで誕生。幼名を**松寿丸**と



言います。祖父が承久の乱に敗軍側で参戦し、陸奥国に配流。松寿丸誕生の頃には家門は没落、十歳の時に母も早世。無常を感じた松寿丸は父の勧めで出家。十三歳の折に太宰府に移り、法然の孫弟子、**聖達**の下で学びます。

★二河白道(にがびやくどう)

一二六三年、二十四歳の一遍は父の死を機に伊予に戻り、還俗して家門を継承。

勇猛な武将だったと言われているが、一族内の所領争いが原因で三十一歳の時に再び出家。

翌年、**長野善光寺**に籠もり、善導や**法然**の教えにつながる**二河白道**を目にして心を打たれます。

水の河(貪り)、**火の河(怒り)**に挟まれた**白道**。一心に念仏を称えて白道を進むことで浄土に至るという悟りです。

半年間、伊予の岩窟に籠もった後、三十五歳の時に**超一・超二**という母娘(妻子説もあります)を連れて修行の旅に出ます。遁世です。

大阪四天王寺、**紀伊高野山**、**熊野三山**などを巡拝。熊野に参籠中、夢に権現が現れ「衆生は既に阿彌陀に救われている。信不信、浄不

浄を問わず、一心に念仏札を配ればよい」と告げられ、一遍は「**真の他力本願**」を悟ります。**時宗**開宗の瞬間です。**元寇(文永の役)**が起き、民衆の不安が高まっていた真つ只中でした。

★賦算と踊り念仏

以後十六年間に、一遍は諸国六十余州を巡り「**南無阿彌陀仏決定往生六十万**人」と書いた念仏札を配りました。**賦算(ふさん)**と言います。

一二七九年、善光寺に向かう途上、**信州佐久**で悟りの喜びを表して一遍が踊り出すと、周りの民衆も念仏を称え、鉦を鳴らして踊り出しました。**踊り念仏**の始まりです。



踊り念仏のようす「一遍上人絵伝」(国宝)

一遍は信州から奥州、江刺へ北上後、松島、平泉、常陸、相模と南下。踊り念仏は各地に拡がっていきます。**一二八二年**、一遍は鎌倉に入るうとします。前年に再び**元寇(弘安の役)**が起き、民衆の不安は極限状態。幕府は人心が煽られることを警戒し、一遍一行の鎌倉入りを禁止。民衆は**片瀬浜**に集まって、一遍とともに踊り念仏に興じます。

★念仏聖、捨聖

その後も、遠州、尾張、近江、京、播磨と遊行を続ける一遍。京では延暦寺、園城寺など、旧来仏教の僧兵に妨害もされましたが、念仏の拡がりは止まりません。一遍は、**念仏聖**、**捨聖**と呼ばれて敬われます。

一二八九年、弘法大師の生誕地、**讃岐の善通寺**などを巡拝。**阿波**で病氣になった後も遊行を続行。とうとう**明石**で力尽きます。五十歳でした。

一遍は「持ち物は全て焼き捨て、葬式はせず、骸は野に捨てて獣に施せ」と遺言。一遍を追って七人の弟子(**時衆**)が入水殉教したそうです。

★栄西の臨済宗

後継者は必要ないとしていた一遍でしたが、最も古い時衆の**真教(しんぎょう)**が時宗を継承しました。

来月は日本にお茶をもたらし**栄西の臨済宗**です。乞ご期待。